



第85巻 第3号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

祈りをつなぐ

濱邊 稔

『五島キリシタン賛歌』

上村久雄詞 伏木幹育曲

- 一、にわかにとよむ 久賀の海捕らへられたる 二百余名牢につな
がれ 足げされしわれらが祖先
五島キリシタン
 - 二、火責め水責め 何おそれんまことのみ神 われにあれば力たま
えと 主に祈りしわれらが祖先
五島キリシタン
 - 三、みあとしたいて われはゆくと誓う心は 火ともゆれども飢え
に寒さに 命細るわれらが祖先
五島キリシタン
 - 四、昨日は助一 今日夕セ明日はわが身か 殉教のころ定めて
祈り折りしわれらが祖先 五島
キリシタン
 - 五、東の空 光射して嵐去りにし島の夕べお告げの鐘に 祈り捧
しわれらが祖先 五島キリシタン
- 私が生まれたのは、長崎県五島列島の久賀島(ひさかじま)です。

ここは今から約一六〇年前、いわゆる「五島崩れ」と呼ばれる迫害により、多くの人々が命を落とし、殉教した地でもあります。とりわけ久賀島の「牢屋の窄」での出来事は、その残酷さにおいて知られております。冒頭に掲げた詩は、この壮絶な迫害を受けた当時のキリシタンの人々に思いを寄せ、その苦難の一端と、揺るぎない信仰の深さを祈りとともに綴ったものです。現在、久賀島を含む五島市は世界文化遺産の島として広く知られるようになりましたが、その美しい風景の背後には、先人たちの尊い歴史が刻まれています。

両親が久賀島の出身である私にとって、自らの信仰のルーツはこの島にあります。命を懸けてなお守り抜かれた信仰と、その熱い思いは、世代を超えて受け継がれてきました。信仰とは守られ、伝えられていくものであると、私は確信しております。そして、その一端を自らも担ってきたいと、常々心に留めております。さて、この春より、私は東星学園小学校・中学校・高等学校の校長を

拝命いたしました。本学園は創立九〇周年を迎え、創立者フロジャク神父の志を受け継ぎ、カトリック・ミッションスクールとしての使命を果たし続けております。

現代の教育現場においては、児童・生徒たちが複雑で不安定な社会の中で、懸命に学び、日々を生きています。そのような中で、私たち教職員は、「キリストの愛の精神であり人間の価値とその使命を尊ぶこと」という建学の精神のもと、「きみは大切な人」というメッセージを子どもたちに伝え続けております。

今年度は「たくましい子どもの育成」をテーマに掲げています。私たちが目指す教育は、一人ひとりの子どもが自らを見つめ、他者を思いやる心を育みながら、確かな学力を主体的に身につけていくことです。そして、失敗を恐れず挑戦し、自分の「好き」や「得意」を伸ばしていける場でありたいと願っています。

結びに、五島のキリシタンの歴史から始まり、東星学園の歩みへと話をつないでまいりました。神はすべての人を、かけがえのない尊い存在として創造し、生かしてくださいといます。先人たちの思いを大切にしながら、私たち一人ひとりが置かれた場所与えられた使命を誠実に果たしていくことの大切さを、改めて強く感じております。

(東星学園校長)

ベタニアの家 永年勤続表彰者
社会福祉法人 慈生会

- (三十年表彰) 徳田保育園 染治 佳子
- (二十年表彰)
 - ベトレヘムの園病院 千葉 博子
 - マ・メゾン光星 阿部 海渡
 - マ・メゾン光星 大平 雅士
 - マ・メゾン光星 関口 雅也
 - マ・メゾン光星 石川 秀俊
 - マ・メゾン光星 稲瀬 悦代
 - 聖ヨゼフ老人ホーム 高橋 智之
 - ベタニアホーム 松田 千恵
 - ケアプランセンター 菅野由美子
- (十年表彰)
 - 法人本部事務局 菅原 政則
 - ケアプランセンター 齋藤 裕和
 - ケアプランセンター 村山 博
 - ケアプランセンター 川股 典子
 - 訪問看護ステーション 川口 史
 - ベトレヘム学園 古高 幹恭
 - ベトレヘム学園 杉本珠里杏
 - ベトレヘムの園病院 横江 瞳
 - ベトレヘムの園病院 松本美有紀
 - ベトレヘムの園病院 菅原恵理子
 - ベトレヘムの園病院 青木美由紀
 - ベトレヘムの園病院 國井 勲
 - ベトレヘムの園病院 藤原 昭美
 - マ・メゾン光星 手塚 晴香
 - マ・メゾン光星 大宮司扶美子
 - マ・メゾン光星 池澤亜希子
 - 聖家族ホーム 宮崎さつき
 - 聖ヨゼフ老人ホーム 大河原淳子
 - ベタニアホーム 安藤 信男
 - 徳田保育園 高橋 優香

新棟完成に寄せて

西山 悦子

聖ヨゼフ老人ホームの新棟建築の計画は、高野前施設長のもと、令和4年(2022年)から始まりました。それは、中国武漢からはじまったCOVID-19感染症が世界中に猛威をふるい、日本もパンデミックに陥った時期でした。東京オリンピックの一年延期、その後の物価・人件費の高騰と、日本の経済状況は激変いたしました。その結果、工事は建築費の高騰や入札の不調に伴う東京都補助金の再申請など、数々の困難に遭遇いたしました。このような状況下ではありましたが2026年4月11日、無事、新棟祝別式を行うことができました。慈生会理事会様、各施設様、ベタニア修道女会様をはじめとした「ベタニアの家」の方々からの多大なるご支援に感謝申し上げます。また、慈生会本部管財課ならびにたびたびの変更を余儀なくされた

設計と工事を担ってくださった三三四設計様、斎藤工業様に厚く御礼を申し上げます。

新棟の構造上の特徴は、全室個室(36床)と広い食堂(多目的ホール)に整備したことです。旧施設と同様に、光をふんだんに取り入れた設計となっております。先日は、「歌による祈りの会」を行いました。



また100インチの壁掛けテレビと75インチのテレビを2台、設置いたしました。施設見学に来られたベトレヘムの園病院のO先生は「1

00インチのテレビで、「スター・ウォーズ」が見たい!是非こちらに入所したい!」とのことで、将来の入所者1名の予約を承りました。

居室は明るく静かにかつ機能的に過ごしていただけるように、造作家具を取り入れました。もちろんB2B環境も整え、ご家族等との通信もいつでもできるようにいたしました。入浴施設も整備いたしました。自宅のように、一人でゆっくりと浴槽につかることができる個人浴槽や機械浴槽を設置いたしました。



現在東京都は、介護環境の整備促進のための介護現場改革促進事業として「次世代介護機器導入促進事業」を行っており、当施設は令和7年度に申し込みをした結果、「見守り

機器」並び「ナースコールシステム」の導入を行いました(補助額一千八百八万円)。見守りカメラによる安全確認によって、特に夜間は利用者様にはゆっくりとお休みいただけるようになったとのことです。またナースコールシステムによって、これまで館内に響いていた呼び出し音や、職員同士が大声で探し合う場面が解消され、スマートフォンを活用して静かに連携できるようになったと、介護スタッフに好評です。

5月11日から、既存棟の大規模改修もスタートいたしました。11月末には、すべての工事が終了予定です。これからは今まで関わってこられた多くの方々の願いや希望を受け継ぎながら、私たちスタッフ一同が、お恵みによって与えられました新たな建物に真心を込めることができますように、皆様方のお祈りをよろしくお願い申し上げます。

(聖ヨゼフ老人ホーム 施設長)

地域で暮らす幸せを

山田 保奈美

那須町社会福祉法人連絡会の部会の一つに、福祉教育部会というものがああります。小学校のカリキュラムの中には福祉教育があるため、部会では各学校で学びたいことに合わせてプログラムを作り、訪問し、様々な体験を通して、学ぶことのできる機会を作っています。福祉教育は、障害がある人や高齢で身体的に課題がある人に対して、「可哀そうだから、困っているから手伝う方法を考える」ではなく、「すべての人が地域の中で幸せに暮らすにはどうすればよいかをみんな一緒に考える」ということが基本になります。そういったことを子どもたちに福祉教育を通してつたえています。



実際に私も参加して行ったことの一つに、「車いすまちなか探検」があります。事前に車いすの使い方を学び、後日実際に車いすに乗って班ごとにまちなかを回り、それぞれ班に出された課題をクリアしてい

くという内容です。車いすに乗ってお店を見て回り実際に買い物をしてみる、多機能型トイレに入ってみる、自動販売機を使ってみる、駅に行つて券売機を触ってみるなど、様々な課題を通して車いすでの生活の面がどういものなのか体験していただきます。事前学習では乗り物感覚で楽しんで乗っている様子が多くみられて、どんな工夫がされているのか、またどんな工夫があればみんなが利用しやすいのかを子ども達同士で話したり、映像を見たりすることで話でなく、実際に体験することで見えることとはとても多く、子ども達も楽しんでみながら学ぶことができているのではないかと思います。



今まで行ってきた福祉教育の内容はほとんどが身体障害者や高齢者のことでした。知的障害や精神障害、発達障害などについて学ぶ機会は少ないと思います。今後は様々な障害について学ぶことで、みんなが地域で幸せに暮らすことを子ども達が進んで考えるきっかけを作っていくと思います。

(相談支援事業所ノエル 相談支援専門員副主任)

令和7年度決算報告

法人全体の貸借対照表の要旨 (令和8年3月31日現在) 単位:千円

Table with 4 columns: 資産の部 (流動資産, 固定資産, 基本財産, その他の固定資産), 負債・純資産の部 (流動負債, 固定負債, 負債合計, 基本金, 国庫補助金特別積立金, その他の積立金, 次期繰越活動収支差額, 純資産合計), 資産の部合計, 負債・純資産の部合計. Values range from 0 to 9,445,955.

社会福祉法人 慈生会 令和7年度 決算報告 6月10日の理事会および6月25日の評議員会で、令和7年度の決算が承認されましたので、その要旨を報告いたします。

事業活動計算書の要旨 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)単位:千円

Table with 4 columns: 事業区分 (社会福祉事業区分, 公益事業区分, 収益事業区分), 収入, 支出, 差額. Values range from 0 to 4,421,555.

資金収支計算書の要旨 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)単位:千円

Table with 4 columns: 事業区分 (社会福祉事業区分, 公益事業区分, 収益事業区分), 収入, 支出, 差額. Values range from 0 to 4,858,845.

財産目録の要旨 (令和8年3月31日現在) 単位:千円

Table with 2 columns: 区分 (資産の部, 負債の部), 金額. Values range from 0 to 9,445,955.



空の鳥をよく見なさい

(マタイ6・26)

四年前、この紙上をお借りして未
来の子どもたちからの預かりもので
ある地球を、みんながずっと幸せに
暮らし続けられるよりよい社会とし
て子どもたちにバトンタッチしたい
と、SDGsの種まきを修道会↓東
星学園↓慈生会の各施設の順で発信
してきました。今回から、教皇フラ
ンシスコの回勅『ラウダート・シ
』とともに暮らす家を大切に『』の中
心テーマ「総合的（インテグラル）
なエコロジー」についてご紹介しま
す。環境問題をいのちの営み、教会
の営みすべてに関わることに捉えて
いきます。

「今日は○○の日」と書き込まれ
たカレンダーがありますが、例えば
国連関連の記念日、5月第2土曜日

は「世界渡り鳥の日」、5月22日は
「世界生物多様性の日」でした。

渡り鳥たちは毎年餌場となる地へ移
動しますが、夏の北極から冬の南極
に往復約7万km飛行するキョクアジ
サシなど、渡り鳥の驚異的な生態メ
カニズムを紹介記事で知りました。

今、気候変動による自然環境の悪化
等によって、その数が大きく減少し
ていることも知りました。

*生き物たちは「ただ存在するだけ
で神をたたえ、神に誉れを帰して」
おり、それゆえ主はご自分のわざを
喜ばれるのです（詩編104・31）。

人間は各被造物に固有の善を尊重し
て、事物の濫用を避けなければなら
ない（同回勅LS 69）*

毎年ユーラシア大陸から神奈川の
湘南地域に来て越冬する「タゲリ」
という渡り鳥の飛来数が年々減少。

タゲリが好む湿田の開発や農家の担
い手不足が原因。市民グループが、

「生き物ブランド米」手法による
「湘南タゲリ米」作りに取り組み、

顧客にはお米の購入消費以上の意義
を伝え、農家や地域の誇りも育まれ
た。同様に「トキ米」（新潟）、「コ

ウノトリ米（兵庫）」もあるそう。

地球・地域環境の保全実践が、人
と生き物の豊かなつながりを回復さ
せている実例に出合い、その熱意に
共感します。いのちの源である創造
主と、いのちの支え手となって働く
人々に心から感謝。

(ベタニア修道女会 Sr 中野 利恵)



編集後記



四月、五月の頃になるとツバメが
現れます。例年、巣は作らずになく
なっていますが、今年は何にやら様
子がいともと違いホーム玄関の電灯
の上に巣を作ろうとしていました。
すごい勢いの低空飛行で飛んできて
フンを玄関前に大量にしていきました。
見てそのホームの幼児さんたちは恐

がり泣いて中に入れない状況でした。
まだ巣を作る前だったため職員が手
作りのカラスをそこに置いた結果、
巣を作るのは断念していました。

(関 広宣)

私が出会って良かった書物に心理
学者アドラーの本があります。感銘
を受けた言葉は多々ありますが、一
番心に残っているのは、人を「信頼」
する大切さについてです。似た言葉
の「信用」は条件付きで相手を信じ、
「信頼」は無条件で相手を信じるこ
ういう違いがあります。仕事上では信
用で成り立つ場面も多々ありますが、
最終的には、自分自身が周囲を信頼
しようとする姿勢がいかに大切かを
教えてもらった言葉でした。

(杉山 智和)

昨年5月、第267代教皇レオ14世
が就任され1年となりました。教皇
は、戦争や搾取など、分断された世
界に「平和・和解・人間の尊重」を
呼びかけ、真の傾聴と対話を求め、
教会を導いていらっしゃいます。創
立者フロジャク神父の生きた姿を今
ここで思い出します。わたしたちも
互いに耳を傾けあい、相違ある中
にも尊重を見いだし、対話を大切に
し、ともに手を取り合って歩んでいく道
を見いだすことができますように。
「生きることは愛することである。
愛することは行うことである。」
創立者のことば

(Sr 川鍋 眞澄)